

RETAILER ACADEMY NEWS

Nov 2023 | Bentley Motors Japan



欧州でマリナーが新作を続々と発表 販売会社の100周年記念やGTの最終モデルで

ベントレー モーターズのビスポーク部門であるマリナーが、欧州で新作を続々と発表しました。販売会社の創立100周年を記念したモデルや、コンチネンタルGT V8モデルの最終モデルを記念した特別仕様車です。いずれのモデルも日本に導入はされませんが、マリナーが手掛けるビスポークの一例としてご紹介します。

ベントレー チューリッヒの創立100周年で 4車種のアニバーサリーコレクション

スイス・チューリッヒの販売パートナーであるシュモール社 (Schmohl AG) が創立100周年を迎えたことを受け、マリナーがベンティガ S、フライングスパー Speed、コンチネンタルGT Speed、コンチネンタルGTC Speedの4車種で100周年アニバーサリーコレクションを製造しました。

エクステリアは、この100周年アニバーサリーコレクションのためにマリナーが特別に作ったボディカラー「スレートブルー メタリック」と、ボディ同色のスタイリング スペシフィケーションを採用。フライングスパー、コンチネンタルGT、コンチネンタルGTCにはトランクリッドスポイラーも装着されます。また、特別仕様のウェルカムランプは「100」の数字を地面に投影します。

インテリア (写真右上) は、メインのレザーカラーが「コニャック」、セカンダリーカラーが「ペルーガ」のデュオトーンで、コントラストステッチを施したダイヤモンドキルティングを採用しています。ダッシュボードとドアウェストレールのパネルは、ピアノブラック×コッパーストー



ンのデュアルヴェニアで、スイッチ類にはダイヤモンドナールリング加工が施されています。

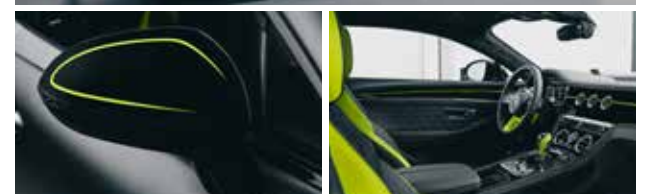
コンチネンタルGTのV8搭載最終モデルを記念

Beyond 100戦略に基づき、2025年までにすべてのモデルラインアップにハイブリッドモデルが設定されることを受け、ベントレー モーターズ ヨーロッパでは、コンチネンタルGTおよびGTCのV8エンジンモデルの受注を11月中旬に終了すると発表しました。この節目を記念し、欧州ではコンチネンタルGT V8の最終モデルに5種類のユニークな「キュレテッド by マリナー」スタイリングパッケージを設定しました。いずれもSとAzure向けです。

5種類のスタイリングパッケージは、それぞれ自然界に存在する色からインスピレーションを得ています。旅先の環境に活力を与える生き生きとした色の顔料から着想を得たキーライム (写真)、エオリアの地形から抽出したパーミリアン顔料を参考に作られたビビッドレッド、アイスランドのマグマのクレーターからナミブ砂漠までという壮大な風景に見られる色調をイメージしたマンダリン、自然の要素を抽象化し

てウェルビーイング重視のAzureモデルにぴったりのクラインブルー、アイスランドの海や夜のオーロラから連想されるターコイズです。

インテリアでは、ステアリングとギアレバー、シートに上記のアクセントカラーが用いられるほか、フェイスパネルとドアウェストレールパネルのピンストライプにもアクセントカラーが用いられます。エクステリアのスタイリングパッケージはインテリアとセットでのみ販売され、ボディキットにピンストライプが施され、ドアミラーカバーにも同色のストライプが施されます。





ロータス初のエレクトリックSUV

ロータス エレトレ

ロータスの正規輸入総代理店であるエルシーアイは、ロータス初のオールエレクトリックハイパー SUV「エレトレ」の発表会を9月1日に実施しました。これまでニッチなスポーツカーメーカーとして知られていたロータスにとって、初のSUV・初のBEVとなる戦略的モデルです。

SUMMARY

- ・約75年間にわたるスポーツカーの設計ノウハウと先進技術を投入した次世代モデル
- ・デュアルモーター搭載の電動SUVとしては世界最速となる0-100km/h加速2.95秒をマーク
- ・800V・112kWhのリチウムイオンバッテリーを搭載し、600kmの航続距離を実現
- ・世界初となる4つの展開式LiDARをはじめとする34のセンサーを使用した先進の運転支援システム（ADAS）を搭載
- ・日本では「エレトレS」と最上級モデル「エレトレR」の2種類のバージョンを設定



EXTERIOR

- ・同社のハイパーカー「エヴァイヤ」、スポーツカー「エミュー」と同様のデザイン言語を用いたキャブフォワードデザイン
- ・電気駆動システムやブレーキに冷却風を供給するため、必要に応じて開閉するアクティブフロントグリルを採用
- ・車速、加速度、ブレーキ、ドライブモードの設定に応じて3つのポジションに自動的に調整されるアクティブリアスポイラーを装備
- ・効率とパフォーマンス、ダイナミクスを考慮したアクティブエアロダイナミックテクノロジーにより空気抵抗係数0.26を実現



TECHNOLOGY

- ・車軸の間と床下にバッテリーを配置した新開発のモジュラープラットフォームを採用
- ・デュアルモーターを搭載した同社初の全輪駆動。エレトレSでは前後に1速トランスミッションを搭載。エレトレRのリアは2速設計
- ・350kWの急速充電を利用した場合は20分で10～80%まで充電可能。わずか5分の充電で航続距離を120km以上伸ばすことが可能
- ・エレトレSの航続距離は600km、エレトレRの航続距離は490km
- ・エレトレSは最高出力603hp、最大トルク710Nmの電気駆動ユニットを搭載。0-100km/h加速4.5秒、最高速度258km/h
- ・エレトレRは最高出力905hp、最大トルク985Nmの電気駆動ユニットを搭載。0-100km/h加速2.95秒、最高速度265km/h



INTERIOR

- ・スパルタンな従来の同社スポーツカーとは一線を画する先進的なデジタルコックピットを実現
- ・ダッシュボード中央には厚さ10mmの15.1インチHD OLEDタッチスクリーン、助手席には高解像度のタッチスクリーンを採用
- ・インテリア素材には、滑らかなナッパレザーに加え、ファッション業界のテキスタイルを再利用した「リファイバー」インテリアを設定
- ・KEFと共同開発したオーディオシステムを搭載。エレトレSでは2,160Wの23スピーカー、エレトレRは1,380Wの15スピーカーを搭載
- ・ラゲッジ容量は688L。リアシートを倒せば1,532Lに拡張可能。フロントフード内にも46Lのラゲッジスペースを確保



PRICE

ロータス エレトレS	23,320,000円(税込)
ロータス エレトレR	25,850,000円(税込)

COMPETITOR INFORMATION

特別仕様車 発表：2023年10月13日 / デリバリー：未定

ジャガー F-TYPE ZP EDITION



- ・2024年モデルをもって生産を終了する「F-TYPE」に設定された内燃エンジン最後の限定モデル
- ・1960年代を象徴する同社の「E-TYPE」に着想を得た内外装。最高出力575PSの5.0L V8スーパーチャージドガソリンエンジンを搭載
- ・世界限定150台。クーペおよびコンバーチブルのうち、日本にはクーペのみ各色6台、計12台を導入

車両価格 (税込)	ジャガー F-TYPE ZP EDITION：	23,630,000円
--------------	-------------------------	-------------

ニューモデル 発売：2023年9月28日 / デリバリー：未定

メルセデス・ベンツGLE / GLEクーペ



- ・フェイスリフトにより、フロントエンドおよびホイールなどのエクステリアとインテリアのデザインを刷新
- ・3.0L 直6直噴ディーゼルターボエンジンにISGを組み合わせたGLE 450 d 4MATIC Sports、GLE 450 d 4MATIC Sports Coupeを追加し、全モデルが電動化
- ・最新の対話型インフォテインメントシステム「MBUX」と「MBUX ARナビゲーション」を全車標準装備

車両価格 (税込)	メルセデス・ベンツ GLE 300 d 4MATIC：	13,760,000円
	メルセデス・ベンツ GLE 450 d 4MATIC Sports：	14,660,000円
	メルセデス AMG GLE 53 4MATIC+：	17,280,000円
	メルセデス・ベンツ GLE 450 d 4MATIC Sports Coupe：	14,800,000円
	メルセデス AMG GLE 53 4MATIC+ Coupe：	18,050,000円

特別仕様車 予約受注開始：2022年9月29日 / デリバリー：2023年10月以降

Mercedes-Maybach S-Class Haute Voiture



- ・高級仕立服のオートクチュールにインスパイアされたメルセデス・マイバッハ S 680 4MATICがベースの特別仕様車。世界限定150台。日本限定3台
- ・エクステリアは専用ツートーンペイント、ブルーペイントの20インチディッシュホイールを採用
- ・インテリアは専用のオパールホワイト/ローズゴールドのインテリアトリム、ブークレ素材のファブリックをあしらったインテリアおよびクッションを採用

車両価格 (税込)	Mercedes-Maybach S-Class Haute Voiture：	63,000,000円
--------------	---	-------------

特別仕様車 予約受注開始：2022年9月27日 / デリバリー：2023年10月以降

メルセデス AMG S 63 E PERFORMANCE Edition1



- ・Sクラスでは初めてとなる垂直ルーバーとセントラルスターグリルを備えたAMG専用フロントグリルを装備
- ・フロントには4.0L V8 ツインターボエンジン、リアアクスルには140kW(190PS)の交流同期モーターを搭載。システム出力 590kW (802PS)、最大システムトルク 1,430Nm 以上を発生し、0-100km/h加速は3.3秒
- ・ソリッドグレーの外装色にブラックアクセントを施したエクステリア、AMG専用装備を採用したインテリアなどを採用。全国限定30台

車両価格 (税込)	メルセデス AMG S 63 E PERFORMANCE Edition1：	40,400,000円
--------------	--	-------------

特別仕様車 発売：2023年9月26日 / デリバリー：未定

アウディ RS 4アバントRSコンペティション/ RS 5スポーツバックRSコンペティション



- ・Audi RS 4 Avant / RS 5 Sportbackをベースに各部を専用チューニングした限定モデル「RS competition」を展開
- ・最高出力450PS、最大トルク600Nmを発揮する2.9L V6 TFSIツインターボエンジンを搭載。内外装もスポーティな専用装備が充実
- ・オンラインによる限定販売。Audi RS 4 Avant RS competitionは3色合計で17台。Audi RS 5 Sportback RS competitionは3色合計で8台

車両価格 (税込)	Audi RS 4 Avant RS competition：	15,350,000円
	Audi RS 5 Sportback RS competition：	16,600,000円

一部改良 発売：2023年10月16日 / デリバリー：未定

レクサス LS



- ・ラジエーターサポートブレースの追加によるリボディ剛性を強化。ステアリングの応答性を向上させ、優れた操縦安定性を実現
- ・最新の予防安全技術Lexus Safety System +を採用。高度運転支援技術Lexus Teammateの機能にAdvanced Drive (渋滞時支援)を追加
- ・12.3インチフル液晶メーターを採用。HEVモデルに非常時給電システム外部給電アタッチメントを搭載

車両価格 (税込)	主なグレード	
	Lexus LS500 "EXECUTIVE" AWD：	16,120,000円
	Lexus LS500h "version L" AWD：	15,900,000円
	Lexus LS500h "EXECUTIVE Advanced Drive" AWD：	17,990,000円

OPTION



ベントレー モーターズによると、ペイント プロテクション フィルムの施工実績が2,000台を超えました。お客様の愛車の塗装品質と輝きを維持する優れたオプションです。新車購入をご検討のお客様に、積極的にお勧めしてください。

クルー工場で新車に施工されるペイント プロテクション フィルムは、新車を購入されるお客様の間で高い人気を誇るオプションとなりました。自動車業界をリードするエキスパートとベントレーが共

同で開発した透明で高性能なエラストマー ポリウレタン フィルムは、ボンネット、左右フェンダー、アッパーバンパー&けん引バーのカバー、ロワーバンパー、ロワーフロントスプリッター、ドアミラーカバー&ミラー基部に施工され、飛び石による塗装の欠けや軽度の傷を防いでくれます。フィルム自体に自己修復機能があるため、擦り傷や細かい磨き傷からも塗装面を保護。さらに汚れ防止やUVカット効果もあるので、透明感のある表面が維持されます。なお、クロームのディテール部分には施工されません。そして、ボディカラーにサテンカラーをお選びいただいた場合も施工できませんので、ご注意ください。

ベントレー モーターズでは、ペイント プロテクション フィルムの施工をお客様がイメージしやすくするため、動画や画像を新たにご用意しました。右記のリンクまたはリテラー マーケティング ニュースのウェブサイトの「Download→Aftersales」からダウンロードのうえご使用ください。SNSなどでも利用できるような、各種サイズ・解像度のデータをご用意しています。

販売店の売上増にもつながりますので、このフィルムの利点をお客様に積極的にお伝え下さい。



→ Retailer Marketing News (英語)

<https://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en/downloads/Aftersales.html#paint-protection-film-assets>



コンチネンタルGT & GTCと フライングスパーの「A」デリバティブの特徴

ベンテイガについては、24MYから「A」デリバティブが追加されたことを受けて、ベントレー モーターズ ジャパンから別途ご案内しており、リテラー アカデミーニュースでもその特徴についてご紹介しました（2023年10月：No.144 参照）。コンチネンタルGTおよびGTC、フライングスパーにも「A」デリバティブが追加されていますので、あらためてご紹介いたします。

Aデリバティブのコンセプト

「A」デリバティブは、ベントレーらしいパワーとクラフトマンシップを、ベースモデルよりもさらにラグジュアリーさを感じられるバランスで仕上げられたモデルです。

24MY コンチネンタルGT & GTCおよびフライングスパーの各デリバティブのポジショニング			
コンチネンタルGT & GTC		フライングスパー	
MULLINER		MULLINER	
W12	V8	W12	V8 HYBRID
AZURE		AZURE	
V8		V8	HYBRID
A	24MY	A	24MY
V8		V8	HYBRID
ベースモデル		ベースモデル	
V8		V8	HYBRID
ウェルビーイング重視		ドライビング ファン重視	

24MY

24MYから新規導入

エクステリアの特徴

- クロームのバーティカルヴェーングリル（グロスブラックのマトリックスグリルとの二重構造）
- ブラック ロワーバンパー グリル
- 左右フェンダーの「A」バッジ
- 21インチ10スポーク「A」デリバティブ専用デザインホイール（切削光輝&グレーペイント仕上げ）



「A」バッジは、コンチネンタルGT & GTC（写真左）がフェンダー上部、フライングスパー（写真右）はフェンダー下部に装着されます。

インテリアの特徴

- カラスペシフィケーション
- フロントシート コンフォート スペシフィケーション
- リアシート コンフォート スペシフィケーション（フライングスパーのみ）
- フルートデザインシート
- シートに「A」ロゴ刺繍
- クラウンカットウォールナット ヴェニア
- 助手席側フェイスパネルに「A」バッジ
- 「A」ロゴ入りレッドプレート



パワートレイン

- コンチネンタルGTおよびGTCは4.0リッター V8エンジンのみ
- フライングスパーは4.0リッター V8エンジン
または電気モーター+2.9リッター V6エンジンのハイブリッド



COLLECTION

ベントレー コレクションの新作 ベントレー ベアからアクセサリーまで多数

ベントレーの公式アイテム「ベントレー コレクション」に新作が追加されました。ベントレー ベアからアパレル、お子様向けのトライク、アクセサリー、モデルカーまで、豊富なラインアップとなっています。

最初にご紹介するのが、新しい4種類のベントレー ベア。特別仕様のシグネチャー ベアは、グレー×グリーンのダブルリボンタイとベントレーのイヤータグでフォーマルな装いが特徴です。エンジニア ベアは、ベントレーのモータースポーツに携わるエンジニアとお揃いのキャップにホワイト×グリーンのオーバーオールを着用。スパナ、ドライバー、レンチが縫い付けられたポケットも付いています。ヘリテージ レーシング ベアは、ベントレー草創期にサーキットを席巻したベントレー ボーイズの1人であるティム・バーキン卿が愛用した水玉模様のスカーフを身につけています。人工スウェードのヘルメット、レーシングゴーグル、ジャケットも相まって、当時のレーサーの雰囲気表現しています。ニットを着ているのは赤ちゃんのベントレー ベアで、ニットキャップとダイヤモンドデザインを取り入れた上着には、ベント



レーのウイングド' B' ロゴがあしらわれています。

ビジネスシーン向けには、バスケースやカードケース、キーリングなどもお勧めです。新しいゴルフテックライン シリーズには、ドライバーとパターが含まれているほか、新しいカートバッグやスタンドバッグもゴルフ好きな方のニーズに応える性能と設計となっています。

アパレルでは、柔らかくスタイリッシュで、なおかつエコロジーを意識して作られた新作ウェアが揃いました。オーガニックコットン100%のパーカー、胸元のストライプがスポーティーな印象のパーカーおよびポロシャツなどは、ラグジュアリーな雰囲気がありながら普段使いしやすいアイテムです。

お子様向けには、ラグジュアリーな6-in-1トライクもラインアップに加わりました。成長に合わせて6つのステージで変形させることができ、随所に車両と同様のモチーフが採用されています。

クリスマスも近づき、大切な方へのプレゼント用としてお客様にお勧めしやすい季節でもあります。販売店の収益増にもつながりますので、ベントレー コレクションの新作を中心に積極的にお客様にご紹介ください。



COLLABORATION

ベントレーが新型クルーザーの 特注インテリアを製作



ベントレー モーターズとコンテストヨット社はこのほど、全長20mの新型セーリングクルーザー「コンテスト 67CS」の特注インテリアを共同で製作しました。ベントレーとコンテストヨット社のコラボレーションは初めてで、完全オーダーメイドのインテリアを作り上げました。

特注のコンテスト 67Cのインテリア製作にあたっては、ベントレーのデザインチームは、コンテストヨット社のデザインチームと密接に協力し、クラフトマンシップのクリエイティビティの限界を押し上げるようなエキサイティングな挑戦としてこのプロジェクトに取り組みました。3Dプリンティングなどの最先端の手法を活用し、個々のコンポーネントの実現可能性を高め、ソファを含むいくつかの完全なモックアップを製作。ヨットのインテリアにマッチするよう厳密な仕上げと厳しい品質基準を満たせるようにしました。ベントレーのジオメトリーへのオマージュであるマルバーンチェアをはじめ、ベントレーホームの家具類も採用されています。レザーにはベントレーを象徴するモチーフであるダイヤモンドキルティングや手縫いのクロスステッチが施されたほか、ティッシュボックスやドリンクのコースターなどの小物類もお客様の好みに合わせて一から作成。船内全体にベントレーのモチーフが随所に散りばめられました。

COLLABORATION

コンチネンタルGT 誕生20周年を記念し ドライビンググローブを製作

ベントレー モーターズはこのほど、コンチネンタルGT 誕生20周年を記念し、ロンドンのデザインスタジオ「フォレストアルギア」とのコラボレーションで、限定のドライビンググローブを製作しました。コンチネンタルGTという究極のグランドツアラーのクラフトマンシップとデザインからインスピレーションを得てデザインされ、車内のインテリアに使用するレザーの余剰部分を使用したサステナブルなアイテムでもあります。

デザインしたのは、世界的なクリエイターであり、フォレストアルギア創設者でもあるエマニュエル・ラワル氏。ブラッククリスタルとレーシンググリーンの2色を組み合わせ、ベントレーとフォレストアルギアのロゴ、ダブルステッチ、手巻きレザーのエッジ、人間工学に基づいて開けられた穴など、コンチネンタルGTに欠かせない要素を盛り込んだ絶妙な仕上がりとなっています。

コンチネンタルGTのステアリングを包むレザーは、機械では適切に縫い合わせる事が不可能で、ベントレーの職人の中でも特に高いスキルを持った人が担当しています。彼らがステアリングに用いる高度な技がこのグローブ製作にも生かされており、手作業で約4週間かけて作られました。

このグローブは現在、ベントレー モーターズ本社に飾られており、コレクターズアイテムとしてお客様にも販売される予定（日本導入は未定）です。



EVのリチウムイオン電池が燃えるとうなる？

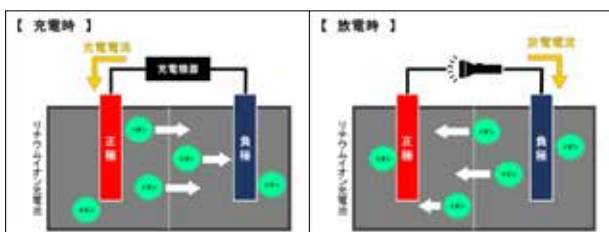
電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド（PHV）には駆動用の大容量リチウムイオン電池が搭載されています。

このリチウムイオン電池が燃えるとうなるのでしょうか？ エンジン車との比較実験の様子を紹介します。

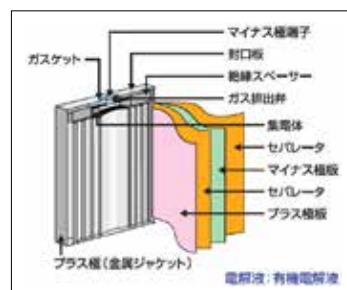


リチウムイオン電池の仕組み

リチウムイオン電池は正極（+）にリチウム化合物、負極（-）にカーボンを配し、その間を電解液が満たしています。正極と負極の真ん中に電解液を仕切るセパレーターがあります。充電を行うと、電解液の中のセパレーターを潜り抜けて、リチウムイオンが負極に移動します。逆に放電するときは、リチウムイオンが正極に移動します。このリチウムイオンの移動で、充電・放電を行っているのです。正極と負極、電解液の素材によって、性能が異なります。



リチウムイオン電池の仕組み。電解液の中をリチウムイオン電池が正極（+）と負極（-）の間を行き来することで、充電と放電を行っています。



家電などに使われるリチウムイオン電池の構造。セパレーターを挟んだ正極と負極の電解液が何層にも積層されているのが特徴です。電池ひとつであるセルを、複数まとめてユニットとして使用します。

リチウムイオン電池が燃える理由

リチウムイオン電池の燃える理由はいくつもあります。代表的なのが「短絡（ショート）」であり、他に「過放電・過充電」「加熱」も理由になります。

「短絡（ショート）」は、正極と負極が内部で短絡（ショート）して熱を持ち、その結果、電解液や正極の素材が熱分解されて、酸素や有毒ガスが発生し、また過熱も促進。最終的に加熱が止まらない熱暴走になり、発火につながります。

短絡（ショート）の原因は、製造時の異物混入や、交通事故などでの物理的破壊などが挙げられます。

EVやPHVは、自動車メーカーによって管理されているため、製造時の不良はあまり考えにくく、また、充電管理の制御もしっかりと行われているため、過放電・過充電からの発火もあり得ません。そのため、EVやPHEVなどのリチウムイオン電池の発火は、ほぼ交通事故などによる物理的破壊が原因と考えられます。

燃やしてみるとエンジン車とEVはどう違うのか？

9月下旬にノルウェーの「Bridgehill」社と愛媛消防学校が「EV火災消火実験・訓練」を実施しました。車両火災を同社「ファイヤーブランケット」という機材で消火するという実験です。耐火性の布を燃える車両に被せて消火します。結果からいえば、エンジン車の車両火災は、2時間ほどで鎮火することができました。一方、

EVは燃え上がるのに手間取ったものの、「ファイヤーブランケット」を被せた後も、熱暴走が終わらずに、何度か温度が上昇しました。搭載のリチウムイオン電池が、順番に熱暴走したと予想されます。最終的に温度が下がり始めるまで4時間かかり、鎮火と言えるほど熱が下がるのに10時間ほどかかりました。

エンジン車の消火

- 1 エンジン車の車内に灯油・ガソリンをまいて火をつけると、わずか数分で大きな火に。



- 2 燃えあがる車両に2人の消防士が「ファイヤーブランケット」を被せてゆきます。



- 3 耐熱性のある「ファイヤーブランケット」で車両を包めば、炎は一瞬で見えなくなります。



EVの消火

- 1 EVの後席下のリチウムイオン電池に直接、釘を打ち込みます。すぐに煙が出ました。



- 2 煙が出るばかりで大きな火にならず、内装材に火が回るのに30分以上かかりました。



- 3 外部と遮断しても熱暴走は3時間以上継続。熱が下がるまで10時間ほどかかりました。

